

# I 岡山大学の理念, 目的, 目標等／博士前期及び後期課程の人材養成目的／教育目標 ディプロマ・ポリシー／カリキュラム・ポリシー

## 岡山大学の理念, 目的, 目標等

### 1 岡山大学の理念 “高度な知の創成と的確な知の継承”

人類社会を安定的、持続的に進展させるためには、常に新たな知識基盤を構築していかなければなりません。岡山大学は、公的な知の府として、高度な知の創成と的確な知の継承を通じて人類社会の発展に貢献します。

### 2 岡山大学の目的 “人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”

岡山大学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とします。

このため、我が国有数の総合大学の特色を活かし、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして、高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施します。

### 3 岡山大学の目標

#### (1) 教育の基本的目標

岡山大学は、大学が要請される最重要な使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

#### (2) 研究の基本的目標

岡山大学におけるあらゆる活動の源泉は、先進的かつ高度な研究の推進にあります。常に世界最高水準の研究成果を生み出すことをその主題とし、国際的に上位の研究機関となるよう指向します。

#### (3) 社会貢献の基本的目標

社会が抱える課題を解決するため、総合大学の利点を活かし、大学の知や技術の成果を社会に還元すると同時に、積極的に社会との双方向的な連携を目指します。

#### (4) 経営の基本的目標

研究、教育の目標を効果的に達成するため、大学に賦存する人材、財政、施設設備などの資源をトップマネジメントにより戦略的に利活用します。

#### (5) 自己点検評価の基本的目標

公的機関として社会への説明責任を果たすため、研究、教育、社会貢献、管理運営のすべての分野において不断の自己点検評価を実施し公表するとともに、その結果を的確に大学改革に反映します。

## 4 人材養成目的

### 大学院医歯薬学総合研究科博士前期課程薬科学専攻

創薬を中心とする薬学及び関連分野における高度な専門知識と技能を持ち、豊かな創造力並びに問題解決能力を備え、製薬、食品、化学関連企業において医薬品等の開発を担う研究者・技術者として活躍できる人材、大学や研究機関の教育者・研究者として活躍できる人材、医薬品や衛生に関する指導や行政で活躍できる人材を養成する。

### 大学院医歯薬学総合研究科博士後期課程薬科学専攻

物理化学、分析科学、有機化学、生薬・天然物化学、生物科学、および生物薬剤学等を基盤とする新規医薬品の創製を目的に、生命現象の生理的維持制御ならびに疾患の発生に係る要因の解明について薬学的見地から科学的に研究し、広く人類の健康に貢献する創薬研究のスペシャリストの養成を目指す。

## 5 教育目標

### 大学院医歯薬学総合研究科博士前期課程薬科学専攻

前記の人材養成目的の実現を図るために、以下の教育目標を掲げる。

- (1) 創薬に必要な薬学領域における高度専門的知識基盤の形成と技能習得とともに、基礎的・教養的知識の修得を目指す教育を推進
- (2) 自由な発想に基づく創造的研究の遂行により、課題探求能力および問題解決能力を醸成する教育・研究を推進
- (3) 豊かな人間性と国際感覚、創薬に係わる高い使命観、倫理観を涵養する教育を推進
- (4) プレゼンテーション能力や対話能力を養成する教育を推進

### 大学院医歯薬学総合研究科博士後期課程薬科学専攻

前記の人材養成目的の実現を図るために、以下の教育目標を掲げる。

- (1) 新規生理活性物質の探索ならびに化学的合成、物性評価、薬効評価、体内動態特性評価、高次機能を有する製剤化など新規医薬品の創製に向けた創薬アプローチ
- (2) (1) に関連する最新の研究法の理解と研究成果の発信
- (3) 生体における分子制御機構に基づいた生命現象と疾患時の生体制御機構の修復と制御に向けた薬学的アプローチ
- (4) (3) に関連する最新4の研究法の理解と研究成果の発信

## 【 参 考 】

### 岡山大学管理学則

(大学院の目的)

第53条 岡山大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

2 大学院のうち、学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的としたものは、専門職大学院とする。

## 6 ディプロマ・ポリシー

大学院医歯薬学総合研究科 薬科学専攻（博士前期・後期課程）では、創薬を中心とする薬学及び関連分野を先導し、広く人類の健康に貢献する国際水準の研究と教育を推進しています。これらの研究・教育活動を通じて、深い学識と高度な専門性、さらには、社会をリードする行動力と自ら成長し続ける意欲を備えた研究者や高度専門職業人を育成し、社会の要請に応えます。そのため、以下の資質・能力を身に付けることを求めます。

- ・ 専門性 薬学に関する幅広い専門知識と技能
- ・ 情報収集・活用力 薬学に関連する幅広い領域の情報を自ら適切に収集・分析し、適切に活用・情報発信する力
- ・ 行動力 薬学のグローバル化に対応した国際感覚、コミュニケーション能力、そして、社会をリードする行動力
- ・ 自己実現力 薬学の発展に寄与するため、生涯に亘って自己の成長を追求し、高い学習意欲を持ち続け研鑽を積む力

博士前期課程では、上記の資質・能力に加え、与えられた研究課題を適切に解決できる基本的な研究遂行能力を身に付けるとともに、所定の単位を修得し、学位論文にまとめた研究成果が学位授与の水準を満たした者に修士の学位を授与します。

博士後期課程では、上記の資質・能力に加え、薬学及び関連分野を先導する知のプロフェッショナルにふさわしい世界水準の広い学識と、研究課題を自ら設定し、自立して研究を遂行できる研究者としての高度な研究能力を身に付けるとともに、所定の単位を修得し、学位論文にまとめた研究成果が学位授与の水準を満たした者に博士の学位を授与します。

## 7 カリキュラム・ポリシー

大学院医歯薬学総合研究科 薬科学専攻（博士前期・後期課程）では、ディプロマ・ポリシーを実現するために以下の教育カリキュラムを編成しています。

- ・ 博士前期課程

### 編成方針と教育・学習方法

博士前期課程では、創薬研究や関連行政に従事する人材の養成を目指しています。

・ コースワークでは、大学院レベルの教養教育科目に位置づけられる「先端薬学特論」を初年次に学びます。この科目は、薬学・生命科学領域の第一線で活躍中の研究者によるオムニバス講義であり、広範かつ先端的な知識を修得するとともにリサーチ・マインドを涵養します。その後、物理・化学・生物・生命科学系の専門科目5科目の中から、学生の専門性に応じて2科目を選択履修することで、薬学研究に関する専門的な知識や情報を体系的に修得し、リサーチワークに生かします。学際的な専門分野にも対応するため、他専攻の相互履修科目を履修することも可能です。

・リサーチワークを行う上で、学生は各年次の始めに研究計画を自身で立てて指導教員に提出し、指導教員はそれに基づいて研究指導計画書を作成して学生に交付することで、研究指導計画を共有してリサーチワークを進めます。リサーチワークの研究指導科目として、情報収集・計画立案・研究の実施と記録を行う実習科目と、自身の研究過程・成果および研究課題に関連する論文報告について論理的・批判的に検証・考察して発表する演習科目を設けています。実習科目として1年次に「薬科学特別研究」、2年次に「薬科学特別応用研究」、演習科目として1年次に「薬科学セミナー」、2年次に「薬科学応用セミナー」を履修することで、研究に必要な専門知識と技能、および情報収集・活用力を順序だてて獲得し、高めることができます。さらに、国際学会での発表を推奨する授業科目も設け、国内外での学会発表と質疑応答を通じて、国際性とコミュニケーション能力及び行動力を養います。これらすべての授業科目を通じて、研究遂行・課題解決・成果発表に関する基本的な能力を育み、目標とする自己実現に繋がります。

## 学習成果の評価方針

規定数以上の単位修得と、リサーチワークに基づく研究成果を纏めた学位論文の審査と最終試験によって学習成果を評価します。

## その他

学務委員会を中心として、教育方法の継続的な改善に取り組んでいます。

### ・ 博士後期課程

## 編成方針と教育・学習方法

博士後期課程では、指導的立場で薬学研究を実践できる研究者の養成を目指しています。

・コースワークでは、大学院レベルの教養教育科目に位置づけられる「研究方法論」を初年次から学び、リサーチワークを進めるために必要不可欠な知識と技能を習得します。多様な学問領域に関心を持てるよう、学内で開催される講演会を研究方法論の授業とみなすこともあります。その後、物理・化学・生物・生命科学・レギュラトリーサイエンス系の専門科目28科目の中から3科目を選択履修することで、自身の専門分野のみに捉われない、薬学研究に関する専門的で先端的かつ学際的な知識・情報を体系的に修得し、リサーチワークに生かします。専門性に応じて、他専攻所属の兼任教員の提供する授業科目や、他機関と共同で設置された連携大学院科目を履修することも可能です。

・リサーチワークを行う上で、学生は指導教員との議論を通じて薬学及び関連分野での先端的かつ独創的な研究課題を設定し、各年次の始めに研究計画を自身で立てて指導教員に提出し、指導教員はそれに基づいて研究指導計画書を作成して学生に交付することで、研究指導計画を共有してリサーチワークを進めます。リサーチワークの研究指導科目として、情報収集・計画立案・研究の実施と記録を行う実習科目（「課題研究」）と、自身の研究過程・成果および研究課題に関連する論文報告について論理的・批判的に検証・考察して発表する演習科目を設けています。演習科目では、自身の所属する教育研究分野が提供する演習科目を必修科目として、所属外の教育研究分野が提供する演習科目を選択科目として履修することで、多様な観点からの批判的思考力や創造性、課題解決能力の育成と伸長を図ります。また、学位審査のためには英語原著論文の執筆が必要であることから、研究の中間段階において「薬科学英語演習」を履修することで、英語原著論文の執筆に必要な情報収集・論理的考察・批判的思考力を涵養します。それに加えて、国際学会での発表を推奨する授業科目も設け、国内外での学会発表と質疑応答を通じて、国際性とコミュニケーション能力及

び行動力を養います。これらすべての授業科目を通じて、知のプロフェッショナルとしての自立した研究者が備えるべき課題探究・研究の立案と遂行・課題解決・成果発表に関する高度な能力を育み、目標とする自己実現に繋がります。

## 学習成果の評価方針

規定数以上の単位修得と、リサーチワークに基づく研究成果を纏めた学位論文の審査と最終試験によって学習成果を評価します。

## その他

学務委員会を中心として、教育方法の継続的な改善に取り組んでいます。